スポーツ実技（ソフトボール）		実習	教授　谷口　英規	
科目カテゴリー	「スポーツマネジメントコースの専門選択科目，スポーツトレーナーコースの専門選択科目，教職科目，柔道整復師コースの教養選択科目，救急救命士コースの教養選択科目」		ナンバリング	11322108 11531104 12220110 12531104 13220117 13531104

１．授業のねらい・概要

ソフトボールは，「投げる・打つ・走る」などの運動の基本動作から構成され，バランスのとれた運動能力を養うことができる。また，役割を区分しやすい競技であるため，自他の能力の活かし方を考え，チームスポーツで必要とされる協調性や責任感を養い，ソフトボールにおけるルールや安全面での配慮や留意事項等の知識を学習することにより，ソフトボールの指導方法や運営方法を身につけることを目的とする。

２．授業の進め方

基本的な技術を習得するため、グラウンド・屋内練習場での実技が中心となる。また，天候によっては教室でルールや戦術といった講義形式で実施し，レポート提出を課す場合もある。

※授業の進行状況により内容等が変更になる場合もある。

３．授業計画

１．ガイダンス	９．ゲーム①（短いイニングを役割決めて行う）
２．投球の基礎技術（グラブの使い方、キャッチボール）	10．ゲーム②（短いイニングで基礎戦術を学ぶ）
３．守備の基礎技術（グラブ操作、ゴロ捕球、フライ捕球）	11．班別対抗戦①（ケースを決めて走・攻・守を行う）
４．投手の基礎技術（ウィンドミル投法）	12．班別対抗戦②（ケース毎に戦術を立てる）
５．ノックの基礎技術（内野手および外野手へのノック）	13．班別対抗戦③（これまでの基礎技術を活かす）
６．チームでの守備連携（併殺プレー、シートノック）	14．班別対抗戦④（スコアの書き方を学ぶ）
７．打撃の基礎技術（トスバッティング、ティーバッティング）	15．班別対抗戦⑤（まとめ）
８．走塁の基礎技術（ベースランニング・打球判断）	

４．準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

ソフトボールのルールを事前に調べ，自分の言葉で説明できるようにする為の準備学修に１時間以上必要である。

５．課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

レポート提出の際，出題意図および回答を提出期限最終日に解説する。

６．授業における学修の到達目標

ソフトボールの基礎技能を理解し，指導するうえで，必要な基本的な動作「投・捕・打・走」を身につけること。また，体育教員（中学校・高校）やスポーツ少年団などの各地域でのスポーツ指導者として，必要な知識（ルール・戦術）及び安全面の配慮などの留意事項等を学び，正しく安全に指導ができる力を身につけることを目標とする。

７．成績評価の方法･基準

技術の習熟度及び授業への取り組み（70%），期末試験としてのレポート課題（30%）によって評価する。

８．テキスト･参考文献

ソフトボール　最強の戦術　　メイツ出版　安藤美佐子（￥1.404）

ソフトボール　監督・コーチ入門　　池田書店　宗方貞徳（￥1.296）

９．受講上の留意事項

実技が中心のため運動に適した服装で出席すること。また，実技を行うことを考慮し受講者数を調整する場合もある。

10.「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。